

研究紀要青葉 Seiyō 第1巻第2号 2009年(平成22年5月31日)

翻 訳

フランス観光報告書2008年版

LE TOURISME EN FRANCE EN 2008

成 澤 広 幸
Hiroyuki NARUSAWA

仙台青葉学院短期大学

フランス観光報告書2008年版

LE TOURISME EN FRANCE EN 2008

成澤広幸 訳

以下の資料は現在、経済・産業・雇用省に含まれ、観光行政を担当している部局 DGCIS (La Direction générale de la compétitivité, de l'industrie et des services) の作成した2008年版のフランス観光報告書 (*Le tourisme en France en 2008*) であり、同省のサイトで公開されている(2009年11月20日確認)(http://www.tourisme.gouv.fr/fr/z2/stat/bilans/att00019407/bilan_2008.pdf)。

フランスでもわが国同様、観光分野には様々な官庁が関係しているが、DGCIS はその中でもフランス観光全体の総合的な調査研究を行う組織を備え、その結果を公刊・公開している。ここに訳出する「フランス観光報告書2008年版」は、2008年のフランス観光の決算を多岐にわたって簡潔にまとめたものである。フランス観光の現状を考察する際の基礎的資料として役立つと思われる。

目次

総括

1. 国際観光
2. 経済環境
3. 訪仏観光
4. フランス人の観光移動
5. 観光宿泊施設の宿泊状況
6. 不均衡な州別の宿泊状況
7. そのほかの観光活動
8. 2008年の観光価格
9. 「ホテル・カフェ・レストラン」分野

総括

国際観光は4年連続して成長を続けた後に、2008年には経済変動の影響を受け、減速した。年間を通して原油価格や為替レートが変動し、9月には財政危機が悪化したのである。

世界観光機関の推計によると、国際観光客の到着数は2007年に比べて2%増加し(2006年には7%の増加)、9億2,400万人に達した。急激な変化は年度半ばに起こった。上半期に5%増加していた国際観光客到着数は下半期で1%低下した。

2008年は世界各地で経済活動の減速がみられた。

この減速は特に欧州とアジアで顕著であった。国際観光客の50%以上が訪れる欧州は、2008年には停滞し、最悪の記録を残した。

フランスでは外国人観光客の到着は3%減少し、8,000万人弱となった。2008年は年間を通して激しい変化に見舞われた年だった。観光客到着数は上半期には目覚ましい勢いで増加していたが、下半期には激しく落ち込んだ。しかしながら入国者数の低下の原因は、主に通過旅行者数の低下である。通過旅行者をのぞけば、観光客入国数は6,800万人で安定している。

最も多数を占めるヨーロッパ人観光客は全体では4%減少したが、陸路からフランスに入国した観光客については7%の減少を記録した。この現象の原因は、特に夏の初めに高騰した航空燃料価格である。ヨーロッパの国の中では、そしてフランスを多く訪れる観光客の出身国の中では、ドイツやベネルクス三国、イギリスなどに居住する通過旅行者について、この減少傾向が顕著であった。通過旅行者以外では、ヨーロッパ人客の減少は1%にすぎない。

遠方からの客は2008年も増加したが、増加の割合にはかなりのばらつきが見られる。北米大陸から旅行者は減少したが、アジア・オセアニアから入国した観光客の中で、日本からの観光客が16%減少したのに対して、オーストラリアからの観光客の増加が著しかった。

フランス銀行の暫定結果によると、国際収支における「旅行」項目の差し引き黒字額は100億ユーロ近くに上ったが、前年（125億ユーロの黒字）より後退した。

2008年にはフランス人観光客は、個人的旅行に関して前年比3%以上の減少を示した。しかし、このような変化は年間を通して一定だったわけではなく、季節的変動と景気を反映した。第1四半期は暦上の要因（2008年は閏年、2008年の復活祭は3月）と2007年には雪不足に泣いたウィンタースポーツが2008年に好調だったおかげで増加が見られた。第2四半期にははっきりとした後退傾向が見られた。これは暦上の要因（2007年の復活祭は4月）と航空燃料の高騰のせいであった。第3四半期はほとんど影響を受けなかった。7月8月のヴァカンスは例年通りだったが、9月には今年の悪天候のことは考慮しないとしても、経済危機の最初の影響が現れた。第4四半期は景気悪化とともに減少に転じた。

フランス人は特に夏季ヴァカンスにおいてほとんど以前と同じほど移動したとはいえ、それでも移動費や燃料価格、航空運賃の燃油サーチャージ、あるいは購買力などの変化に結びついたいくつかの判断を行ったように見える。こうした判断は外国旅行が減少したということと、営利宿泊の減少という面に現れている。

観光ホテル業界は2008年8月以来の景気の急激な悪化の影響を被った。観光ホテルは1億9,800万の宿泊数を記録したが、これは2007年に比べて0.6%の減少である。しかし1月から5月までの年度前半は非常に良好で、特に5月はきわめて好調だった。年間を通してみると、フランス人客の宿泊は堅調であった一方、外国人客は1.7%減少した。不調だった下半期にも関わらず、ヨーロッ

パ人観光客の宿泊数は年間0.3%増加した。しかしイギリス人とスペイン人については顕著な落ち込みを記録した。米国や中国、日本など遠方からの外国人客の宿泊は、2007年に比べて著しく落ち込んだ。全体的に見るとホテルの稼働率は2007年に比べて0.6ポイント減少し、61.4%となった。このような減少傾向によって最も影響を受けたのが、宿泊の増加以上に客室が増加した三つ星や四つ星の「高級ホテル」であった。各州についてみると、ミディ・ピレネ州は冬の好調なシーズンとルルドの聖年という二重の好機に恵まれた。

2008年の野外宿泊は5月から9月までの宿泊数が9,900万と好調な結果を記録したが、この記録は2007年の夏季シーズンよりも1.2%増加している。宿泊はモビールハウスと呼ばれる軽量住宅が装備された区画については依然として増加傾向が続いたが（+6.9%）、区画のみのキャンプ場については減少した（-2.1%）。2008年のシーズンは山岳と海浜以外のすべての観光空間にとって全体的に好調であったが、コルシカと西部がやや減少した。このようなキャンプに有利なシーズンは、0.4%とわずかに減少した外国人客に対して2.1%増加したフランス人客のおかげで実現した。オランダ人キャンパーは常に最大の客層であり、外国人客の宿泊数の42%を占めているが、オランダ人客に続くのがイギリス人キャンパーとドイツ人キャンパーである。ドイツ人とイタリア人の宿泊は、それぞれ-6.7%と-10.6%と大幅に減少した。

2008年に旅行代理店業界の総売上高は2007年に比べて5.3%増加した。ツアー・オペレータについてみると、ツアー・オペレータ協会（CETO）によると、旅行数は2007年11月1日から2008年10月31日までの間に3.1%増加したが、前年同期に比べると売上高は8.2%増加した。パック旅行の業績については7.3%増加したが、航空機チケットのみの場合は13%も増加した。最も好調だったのが中距離便の活動であった。好調だった目的地の中では、米国同様、エジプトとトルコをあげることができる。

2008年を通して観光活動の消費価格は漸進的に

進展し、4.2%の増加を示したが、全体的な消費価格指数（+1.0%）よりも遥かに高い伸びを示した。2008年にホテルの料金は増加傾向を示し、輸送や団体旅行の価格はさらに高い伸びを示したが、レストランなど飲食料金の伸びはわずかにとどまった。

2008年にもホテル・カフェ・レストラン業界は有給の雇用の創出源である。2008年末の時点でホテル・レストラン業界は88万9,000人のサラリーマンを雇用していた。この実数は年1.2%の伸びであり、2007年には2.9%に達した。この増加は、有給の雇用について2008年に営利部門全体での0.9%の減少、第三次産業全体での0.7%の減少と比較されるべきである。

1. 2008年の国際観光

国際観光は4年連続して成長を続けた後に、2008年には経済変動の影響を受け、減速した。国際観光客の入国数は、2007年には7%増加したが、2008年は2007年に比べて2%増加した。経済環境の変化は2008年前半の5%という増加ののち、この年の半ばに起こった。国際観光客の入国数は下半期に1%減少した。

2008年は石油や一次産品の価格高騰、為替の急激な変動、財政危機の拡大、信用収縮などの要因で、経済環境が非常に不安定であった。2008年には世界各地で景気減速が見られたが、特にヨーロッパとアジアが下半期に国際観光客を減らした。

世界の中で有数の観光目的地であるヨーロッパは国際観光客の半数以上を迎えているが、2008年には停滞し、最悪の結果となった。北欧と西欧を訪れる国際観光客が減少した一方で、地中海沿いのヨーロッパ諸国では微増した。最高の結果を残したのは中欧と東欧であり、2008年には2.6%の増加を示した。

アジア太平洋地域は2007年が11%の増加だったのに対して2008年は2%（推計）と大幅に落ち込んだ。最も影響を受けたのは北アジアとオセアニアであった。中国四川地震や、中国内のレジャー需要の減少を招いた北京オリンピックなど個別の

出来事で不利益を被った地域もあった。上半期に好調だった日本はドルや元に対する円高によって、下半期に国際観光客の減少を招いた。

2008年、アフリカ地域は合計で4,700万人（推計）の国際旅行者のおかげで2007年の8.5%に引き続いて5%の増加を記録した。北アフリカ地域で最も活発だったのは7%の増加を記録したモロッコであり、4%増加のチュニジアをしのいだ。サハラ砂漠以南のアフリカ地域でも好調な結果が得られたが、南アフリカ地域も同様であった。それに引き換えケニアなどの国々は内政問題の影響を受けた。

アメリカ地域は2008年に3.6%の国際観光客数の増加を示したが、特に米国における年度当初の好調さが大きい。中米と南米の地域もまた好調な結果を記録した。

中東は国際観光客数の増加が11%と、最高の伸びを記録した。

世界各地の国際観光客数（2008年）

	国際観光客入国数 (暫定、単位1万)	前年比割合
ヨーロッパ地域	48,900	+0.1%
北欧	5,700	-2.1%
西欧(フランス含む)	15,300	-1.2%
中欧・東欧	9,900	+2.6%
南欧地中海諸国	17,900	+0.6%
アジア太平洋地域	18,800	+1.6%
北東アジア	10,500	+0.4%
東南アジア	6,200	+3.6%
オセアニア	1,100	-1.5%
南アジア	1,100	+4.3%
アメリカ地域	14,800	+3.6%
北米	9,800	+3.2%
カリブ海諸国	2,000	+1.2%
中米	800	+7.9%
南米	2,100	+5.9%
アフリカ地域	4,700	+4.6%
北アフリカ	1,700	+5.3%
サハラ砂漠以南のアフリカ	3,000	+4.1%
中東	5,300	+11.3%
合 計	92,400	+1.8%

出典：世界観光機関（UNWTO）

2. 2008年の経済環境

2008年は経済面で多くの衝撃に見舞われた。原油価格は上半期に急騰したと思うと次に急落し、為替相場も大きく変動し、10月には財政危機が突如悪化した。

原油価格

原油価格は2008年に大きく変動した。2007年12月にはすでに1バレルあたり91.2ドルを記録していたが、7月には147ドルに達し、2008年12月には40.3ドルにまで急落した。このような変動はユーロではいくらか緩和された。1バレルあたりの価格は2007年12月の62.7€から2008年6月には85.2€、同年12月には29.8ユーロへと変化した。

平価の動き

2008年にイギリスポンドはユーロに対して大きく値を下げた一方で、アメリカドルと日本円は7月以降に再び上昇に転じた。

通貨	2007年12月	2008年7月	2008年12月
£/€	1.38766	1.26091	1.10561
\$/€	0.68632	0.63413	0.74536
¥/€	0.61142	0.59364	0.81624

出典：INSEE

秋の金融危機悪化

2007年8月に端を発する金融危機は2008年9月以来明らかに悪化した。米国では9月7日に抵当証券会社のフレディー・マックとファニー・メイが

破産をさけるために当局の管理下に入った。9月15日、事業銀行のリーマン・ブラザーズが破綻した。この破綻が金融市場でのパニックの引き金となった。9月16日、破綻に瀕していた世界最大の規模の生命保険会社AIGが公的支援を受けた。ヨーロッパでもほかの金融機関が危機に瀕した。この危機に立ち向かうに際して多くの国が、金融機関の連鎖倒産を避けるために措置を講じた。こういう状況は10月末から11月初旬にかけて落ち着いた。

主要先進国の国内総生産

	2007	2008 第1四 半期	2008 第2四 半期	2008 第3四 半期	2008 第4四 半期	2008 (暫定)
米 国	2.0	0.2	0.7	-0.1	-1.6	1.1
日 本	2.4	0.3	-1.2	-0.4	-3.2	-0.7
イギリス	3.0	0.4	0.0	-0.7	-1.5	0.7
ユーロ圏	2.6	0.7	-0.3	-0.2	-1.5	0.7
内、ドイツ	2.6	1.5	-0.5	-0.5	-2.1	1.0
フランス	0.4	0.4	-0.3	0.1	-1.1	0.7

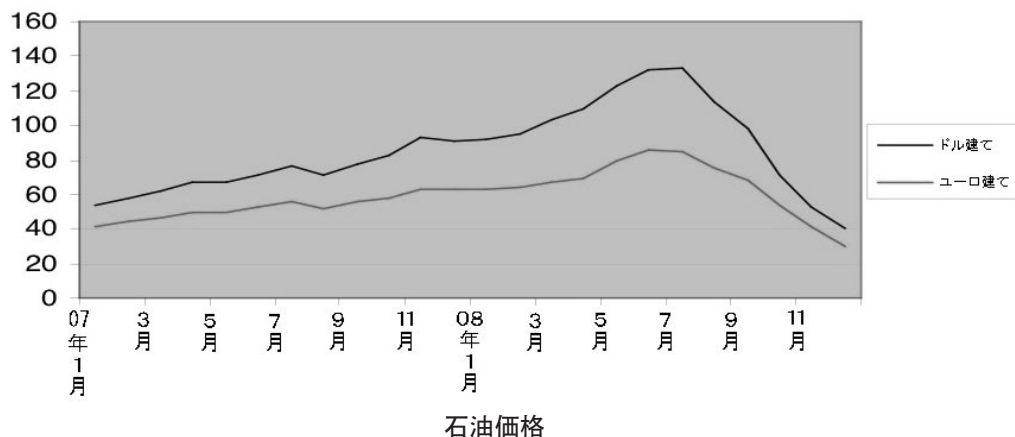
出典：INSEE

米国以外の地域の景気変動は2008年第2四半期に激しくなり、第4四半期に急激に悪化した。

3. 訪仏観光

2008年における非居住者の観光客数の伸びは鈍い。

フランスは世界最大の観光目的地である。2008年についても、非居住者の観光客の入国数がおおよそ3%減少したのにも関わらず、そうであった。暫定値によると、この数は8,000万人近くに上る。



非居住者の観光客の入国数（旅行動機）

動機	入国数(単位100万)			変化割合(%)				
	2006	2007	2008	2008/2007	T1	T2	T3	T4
通過	13.9	31.9	11.3	-19	-13	-22	-23	-10
通過以外	65.0	68.0	68.0	0	11	7	-8	-6
合計	78.9	81.9	79.3	-3	7	2	-11	-6

出典：EVE（外国人訪問者調査）の暫定結果

2008年は一年を通して非常に強い景気変動に見舞われた年だった。観光客の入国数は第1四半期にはかなりの増加を示したが（前年比では第1四半期は7%の増加、第2四半期は2%の増加）、第2四半期を通して急激に落ち込んだ（第3四半期には-11%、第4四半期には-6%）。第3四半期と同じく、この四半期はそれだけで一年の観光活動の三分の一以上を占めるが、2008年全体を通して非居住者の観光客入国者数は明らかに低下した。

しかし世界観光機関が採用している指標である外国からの観光客入国数によれば、フランスで一泊を過ごすだけの単なる通過に過ぎないことが多い短期滞在を計数することができる。たとえば8,000万の外国人観光客入国数のうち、1,100万以上がフランスを通過するだけである。彼らはフランスで少なくとも一泊を過ごす、彼らの滞在は最終目的地に至るための一段階にすぎない。最新の推計によると2008年にフランスを観光目的地として選択した旅行数は6,800万であり、この数字は2007年の数字に匹敵する。

通過旅行者の著しい減少によって

通過旅行者の入国数の減少は年間を通してみられるが、燃料価格がピークに達した時期である第2四半期と第3四半期に著しい。フランスにおける通過観光客数の減少を北ヨーロッパの近隣諸国（イギリス、ドイツ、ベネルクス諸国など）における同様の落ち込みと比較できる。例えば非居住者の観光客入国数はこの年スペインでは3%減少した（注1：このスペインのデータは観光研究所（IET）とその調査「FRONTUR」に由来する）。

スペインにおけるこの落ち込みは陸路からやってくる非居住者の観光客に基本的には関係している（-14%）。この年の夏はおそらくは燃料価格の高騰によって、多くのヨーロッパ人が移動しなかったか、あるいは移動しても近場だけだったというのはありそうである。それにヨーロッパに限れば、陸路以外の様々な交通手段の間の移動が観察できる。ヨーロッパ人観光客の中にはスペインに行くためにフランスを自動車で横断する習慣を持つものがいるので、このこともフランスを通過する観光客数の減少を説明している。

先に指摘したように、第3四半期は原油価格の高騰の影響を全面的に受けた。夏のはじめの時期に高騰した燃料価格は、非居住者の観光客の入国数落ち込みを説明する仮説である。実際、陸路からの入国者数は年間平均で7%の減少、第3四半期だけについてみると12%もの減少を記録した。陸路からの入国は年間入国者数の55%以上を占めるということがわかっているだけに、この減少が観光客入国者数に占める割合は大きい。その反対に2008年の第4四半期における観光客入国数が6%減少したことは、おそらく現在の経済危機に結びついているのであり、ガソリン価格の水準に左右されたのではない。

旅行期間別に異なる変化

このような観光客入国者数の減少は、理屈の上からは宿泊数減少を伴う。しかし宿泊数の方は比較的少ない減少にとどまった（-1%）。実際、最も減少したのは一泊旅行をした観光旅行入国者数（-15%）についてであったのに対して、2泊ないし3泊の観光旅行入国者数の割合は増加している（それぞれ+3%と+4%）。15泊以上の観光旅行入国者数についてもまた大きく落ち込んだが（-13%）、その数は入国者全体から見ればわずかな割合を占めるにすぎない（8%未満）。

同じく注意を要するのは、非居住者の入国数の減少が営利宿泊の分野で顕著だということである（-4%、通過以外では-2%）。

旅行期間別に見た非居住者の観光客入国者数

(入国数：単位1万)

宿泊数	入国者数		変化割合	期間別分布	
	2007	2008	2007/2008	2007	2008
一泊	1,460	1,240	-15%	18%	16%
2泊	1,060	1,100	3%	13%	14%
3泊	1,170	1,220	4%	14%	15%
4泊から 7泊まで	2,430	2,370	-3%	30%	30%
8泊から 14泊まで	1,350	1,380	2%	16%	17%
15泊以上	720	620	-13%	9%	8%
合 計	8,190	7,930	-3%	100%	100%

出典：EVE（外国人訪問者調査）の暫定結果

宿泊方法別に見た入国者数の変化（入国数：単位1万）

宿泊方法	2007	2008	変化割合	通過以外の変化割合
非営利	2,080	2,070	-1%	5%
営 利	6,510	6,230	-4%	-2%

出典：EVE（外国人訪問者調査）の暫定結果

注：営利宿泊における滞在のための入国数と非営利宿泊における滞在のための入国数の合計は、入国者全体を上回る。実際、同一の観光客が旅行中に部分的に営利宿泊と非営利宿泊を利用するということがあり得る。

出身地域別では

ヨーロッパ人客が減少したのに対して、より遠方の国々からの入国者に増加傾向は全体的に見て変わりなかった。しかし北米地域は減少傾向で、アジア・オセアニア地域の増減は非常にはっきりしていた。つまりに日本からの入国者が16%減少したのに対して、オーストラリアからの入国者は非常に増加したのである。

居住地域別に見た非居住者の観光客入国数

(入国数：単位1万)

居住地域	入国者数		変化割合
	2007	2008	2008/2007
アフリカ	140	150	9%
北米	430	430	-2%
北米以外のアメリカ大陸	150	150	0%
アジア・オセアニア	370	390	5%
ヨーロッパ	7,100	6,810	-4%
合 計	8,190	7,930	-3%

出典：SDT（観光需要調査）の暫定値

非居住者の通過観光客の入国数の減少は、フランスの北部や東部に隣接する地域（ここではイギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ、スイス、ルクセンブルク、アイルランドを考えている）からの入国者減少と対になっている。これらの国々からの観光客入国者数の減少は7%に達する。今年は減少したこれらの観光客は、2007年には入国者数の62%を占めていた。

欧州各国の、特に上得意の国々の中で、通過以外の変化が抑えられたドイツやベネルクス諸国、イギリスなどに居住する訪問者の減少が特徴的である。

ヨーロッパ人観光客の入国数（入国数：単位1万）

居住地域	入国者数		変化割合	
	2007	2008	2008/2007	通過客以外
ドイツ	1,300	1,160	-11%	-9%
ベネルクス諸国	1,710	1,590	-7%	-9%
イギリス諸島	1,560	1,500	-4%	-1%
イタリア	840	840	0%	11%
イベリア半島	620	640	3%	0%
スイス	540	510	-4%	-7%
その他欧州諸国	530	570	10%	13%
欧州合計	7,100	6,810	-4%	-1%

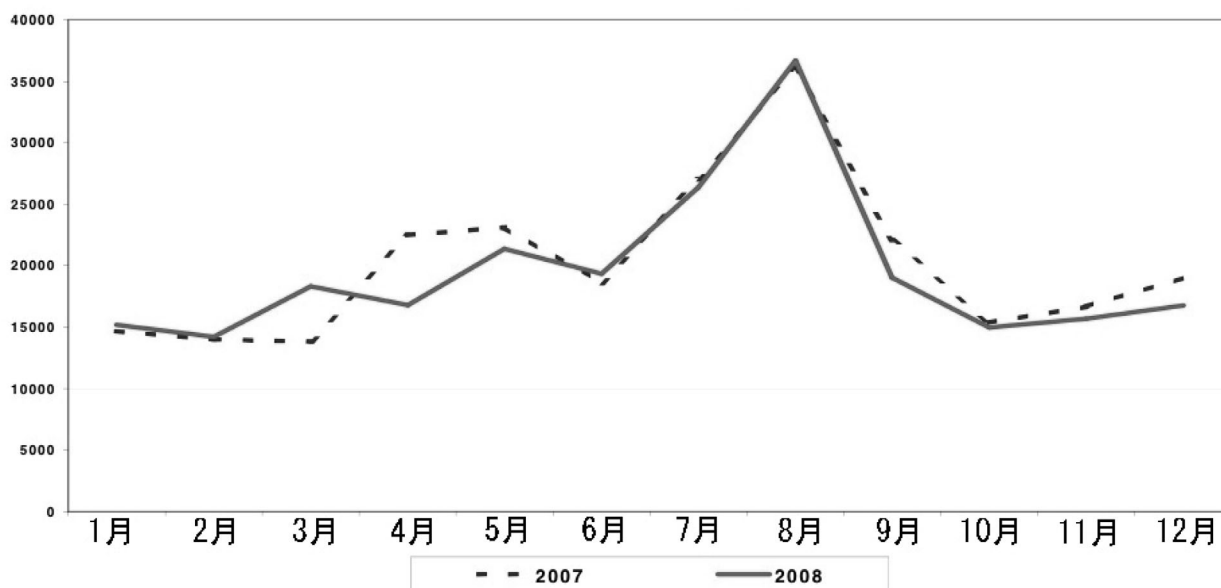
出典：EVE の暫定値

4. フランス人の観光移動

観光旅行にとって非常に対照的な年間変化

2008年にフランス居住者の個人的動機による旅行数は前年比3.4%の減少を記録した。しかしこの変化は1年間を通して同じような調子だった訳ではない。カレンダー上の並びや経済環境の変化を反映しているのである。

第1四半期において旅行数はカレンダー上の二つの影響で大いに増加した。2008年は閏年で、復活祭の週末が3月にあたったのに対して、2007年では4月だった。次いで第2四半期は前年同期に比べてはっきりと減少を示した。つまり4月には復活祭の週末がなく、5月には既に燃料価格の高騰の影響が現れたのである。第3四半期の7月と



フランス居住者の個人的動機での旅行 (単位: 千)

出典: SDT の暫定値。

注: 旅行は帰宅した月に行われたとされる。

8月 は前年並を維持したが、これはこの時期が伝統的に家族でのヴァカンスの時期だからである。

9月には前年比で顕著な落ち込みが見られたが、この月は年配者と学生が時期をずらしてヴァカンスをとる時期に当たる。この月には経済危機の最初の兆候が観察され、第4四半期においても減少が続いた。

個人的動機による旅行数の変化
(2007年の同時期と比較した場合の四半期と半期)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	上半期	下半期	2008/2007
旅行数	+12.2%	-10.4%	-3.7%	-7.1%	-1.4%	-5.0%	-3.4%

出典: SDT の暫定結果

宿泊施設別・目的地別に非常に異なる結果

2008年は全体的に旅行数が前年比3%以上減少したが、営利宿泊に限ると低下率は6%近くに達したものの、非営利宿泊（別荘、親族や友人を訪問）に関しては2%の増加が観察された。

それ以外に、目的地によって非常に異なる変化が見られた。フランス本国内の旅行では前年比1.3%の増加が記録されたが、外国や海外県への旅行数は12%以上も減少したのである。フランス

本国からの客についてみると、海外県のホテルでの宿泊数は11%減少した。

個人的動機での旅行数の変化 (宿泊施設と目的地別)

宿泊施設タイプ	目的地が国内	その他目的地	合計
営利宿泊	+4.5%	-12.1%	-5.9%
非営利宿泊	+0.5%	-10.0%	2.0%
合計	+1.3%	-11.5%	-3.4%

出典: SDT の暫定結果

フランス人がほとんど例年並に、特に7月と8月のヴァカンスに行くとしても、輸送費の高騰（燃料費、燃油サーチャージ）や購買力の変化に応じた判断の影響を被っているように見える。こうした判断によって外国旅行が減少し、非営利宿泊が増加したのである。それ以外に、こうした判断はヴァカンスを過ごす土地での最低限の消費、特に飲食費やレジャー費の抑制にも結びついていることが知られている。

フランス本国内では相変わらず長期滞在が行われる

上述の判断はまた、滞在期間によっても表される。たとえば本国の目的地について、一泊や二泊という非常に短期の滞在は減少しているが、もっ

と長期の滞在、特に少なくとも6泊の滞在の数は増加している。このことは伝統的な夏のヴァカンスが維持されていることを意味する一方で、5月の何回かの週末の連休が燃料費の高騰であまり利用されなかったということでもある。

それに対して本国以外への旅行についてみると、最も大きな減少を示したのは3泊から5泊までの旅行であった。

個人的動機での旅行数の変化（宿泊数別）

宿泊地	旅行期間			合計
	1泊から 2泊	3泊から 5泊	6泊以上	
フランス本国	-2.0%	+4.6%	+6.5%	+1.3%
その他目的地	-8.8%	-17.8%	-10.1%	-11.5%
合計	-3.3%	-3.5%	-3.4%	-3.4%

出典：SDTの暫定結果

列車移動の市場割合が増加

列車移動の市場割合の増加が、ほかの交通手段、特に飛行機や船舶、陸路（乗り物の種類がどうであれ）を利用する移動にも関わらず、観察された。

個人的動機での旅行数の変化（輸送機関別）

	陸路(注)	列車	飛行機	その他	2008/2007
旅行数	-1.8%	+6.6%	-17.2%	-1.9%	-3.4%

出典：SDTの暫定結果

注：列車、二輪車、バス、キャンピングカー

5. 観光宿泊施設の宿泊状況

ホテル：2008年下半年に利用者数が明らかに減少

2008年は観光ホテルにとって激動の年だった。宿泊数は1億9,770万を記録したが、この記録は前年比0.6%の減少である。2008年前半（1月から5月まで）の宿泊数は、5月が予想外に好調だったこともあって3.1%の増加となった。この年後半の宿泊数の減少は経済危機に起因し、特に外国人客の宿泊数が落ち込んだ。

全体的に見ればこのわずかな減少は、一つ星と二つ星のホテルへの宿泊数減少（それぞれ2.4%

と0.9%の減少）と同じく、経済的なホテルへの宿泊数が減少したことによる（星なしホテルで1.6%の減少）。宿泊数がわずかでも増加したのは三つ星ホテル（0.1%）と四つ星と四つ星デラックスのホテル（0.5%）であった。

こうした宿泊傾向はすでに過去においても観察されたが、利用できる供給の種類が増加したのにも関わらず、今回も明確に現れた。2008年を通して、ホテルの全体的な宿泊収容力が減少したとしても（総客室数は0.4%の減少）、むしろハイクラスのホテルにおいては客室数が増加した（三つ星ホテルは0.9%増加、四つ星と四つ星デラックスホテルは3.2%増加）。しかし客室数は経済的なホテルと中位のホテルで大きく減少した（星なしホテルでは1.6%の減少、一つ星ホテルで4.8%の減少、二つ星ホテルで1.2%の減少）。

2008年の景気と経済ショックとは無関係に、ホテル業界はこの1980年代以来続いてきた傾向に従って事業再構築を進めてきた。この事業再構築の主な特徴は、三つ星ホテルと四つ星と四つ星デラックスホテルにおける客室数の割合が、1986年の27%から今日では40%近くにまで達したことである。

観光ホテルにおける宿泊数と総数の変化

	客室数 2009年 1月1日 現在	変化割合 2009年 1月1日 ／2008年 1月1日 (%)	宿泊総数 2008年	宿泊総数の 変化割合 2008年 ／2007年 (%)
星なし	77,478	-1.6	27,263,687	-1.6
一つ星	31,888	-4.8	9,418,757	-2.4
二つ星	365,002	-1.2	80,962,026	-0.9
三つ星	173,393	+0.9	57,361,251	+0.1
四つ星・四 星デラックス	64,321	+3.2	22,667,424	+0.5
合計	612,082	-0.4	197,673,145	-0.6

出典：ホテル宿泊調査（INSEE、観光局、各州の提携先）

宿泊数の変化と宿泊収容力の変化は客室稼働率の変化によって表される。観光ホテルの客室稼働率は全体的に見て2007年に比べて0.6ポイント減少し、年間平均が61.4%となった。稼働率の落ち

込みは9月に著しかった。

このような客室稼働率の落ち込みによって2008年に最も影響を受けたホテルは、宿泊数以上の客室増加に走った「ハイクラス」ホテルであった（三つ星が0.8%減少、四つ星が2.3%減少）。さらに高級ホテルは外国人客の減少によっても打撃を受けた。実際、三つ星ホテルでは外国人客がフランス人客と同じ宿泊数を記録したが、四つ星ホテルでは外国人客がフランス人客の2倍の宿泊数を記録した。

高級ホテルの正反対に位置する星なしホテルの客室の稼働率は0.9ポイント減少した。一つ星と二つ星という中間クラスのホテルについては、宿泊収容力が宿泊数の変化に合わせてかなり調整されている。たとえば客室稼働率は一つ星ホテルでは0.9%減少したが、二つ星では0.1%の減少にとどまった。宿泊総数の40%以上を占める二つ星ホテルの宿泊客は三分の二がフランス人である。

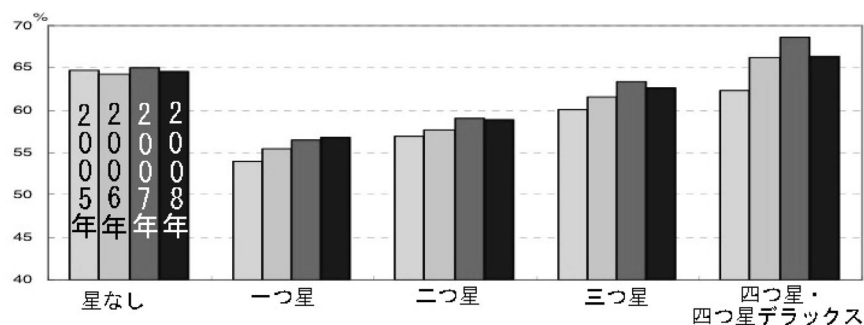
観光ホテルにおける外国人客の宿泊数は、2008年を通してみた場合、1.7%の減少を記録した。この傾向は月ごとに大きく異なっている。すなわち宿泊総数の三分の一以上を占める外国人客は上半期に増加したが（1月から5月まで3.1%の増加）、それでも下半期における宿泊数の大きな減少（6月から12月まで4.3%の減少）を埋め合わせるには不十分であったのである。下半期の全体的な減少傾向にもかかわらず、ヨーロッパ人客の宿泊数は年間を通して0.3%増加した。

イギリス人客の宿泊数は1,470万を記録してヨーロッパ人客の宿泊数の四分の一以上を占めるが、

5.7%の減少となった。この減少には大きく二つの要因が関係する。一つには、2007年にイギリス人観光客は特にラグビーワールドカップのために大挙して来仏しただけに2008年の減少がそれだけ目立ったのである。他方、ユーロに対するポンドの相場がイギリス人にとって不利になったからであった。

ヨーロッパ人客の中で第二位を占めるイタリア人観光客は、2008年には大挙して来仏した。イタリア人観光客の宿泊数は4.5%の増加を記録した。彼らが主にやってきたのはミディ・ピレネ州、特に2008年の聖年祭の開催されたルルドであった。イタリア人はルルドの町の主要外国人客であり、外国人客の宿泊数の45%を占めた。それに反してドイツ人とスペイン人の宿泊数は減少した。

2008年はまたアメリカ人の宿泊数の継続的な落ち込みも特徴的であった。ユーロに対するドルの価値下落がおそらく2008年を通してのアメリカ人の宿泊数の連続的な減少（-15.5%）の大きな要因となった。同様の経済的要因によって（ユーロと円の相場）、日本人の宿泊数も2007年比12.1%の減少を記録した。オリンピックの聖火リレーがパリを通過したときのアクシデントによって、そして何よりもオリンピックの開催自体によって、中国人客の宿泊数は非常に大きな影響を受けた。2008年の彼らの宿泊数は20.8%も減少したのである。



観光ホテルの等級別稼働率

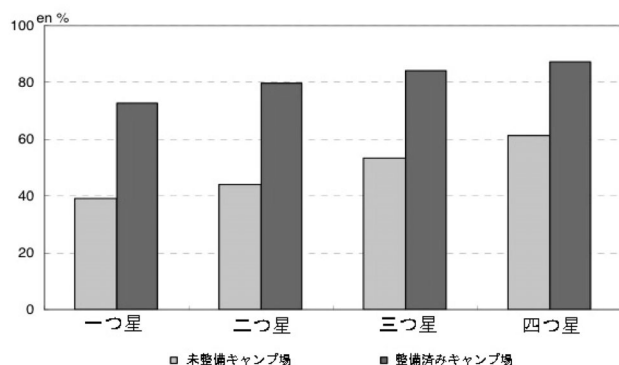
出典：ホテル宿泊調査（INSEE、観光局、各州の提携先）

キャンプ：2008年も相変わらず非常に人気のキャンプ場

沈滞した経済環境下で野外宿泊は2008年に窮地を脱した。実際、こうした良好な結果は、部分的には、ほかの形態の営利宿泊に比べて安価なキャンプを好む客の選択のせいである。

2008年の野外宿泊の宿泊数は9,880万に達し、2007年のシーズンに比べて1.2%の増加を記録した。宿泊数の伸びが特に著しかったのは、ハイクラスのキャンプ場であり、三ツ星キャンプ場では0.9%の増加、四ツ星キャンプ場では4%の増加をそれぞれ記録した。野外宿泊における供給はここ数年変化してきている。すべての等級を総合してみた場合、キャンプ場やキャンプ区画の数が減少する傾向にあるとはいえ、ハイクラスのカテゴリーは増加している。2008年に四ツ星キャンプ場のキャンプ区画数は2.3%増加した。上位カテゴリーの区画の増加はキャンパーに好まれるタイプの区画に関係する。賃貸用区画（トレーラーハウス型の軽量住居付き）は順調な伸びを示し、その数は4.8%の増加を記録した。この種の区画はキャンプ区画総数の20%しか占めていないのにも関わらず、宿泊数の37.5%を占めている。この種のキャンプ区画の半数以上が三ツ星ないし四ツ星のキャンプ場に存在する。2008年にこの種のキャンプ区画での宿泊数は6.9%増加したが、そういう設備のないキャンプ区画への宿泊数は2.1%減少した。

2007年のシーズンの結果は芳しくなかったが、2008年のキャンプ場の稼働率は33.4%に達し、前



キャンプ場稼働率（2008年8月）
出典：キャンプ場宿泊調査（INSEE、観光局）

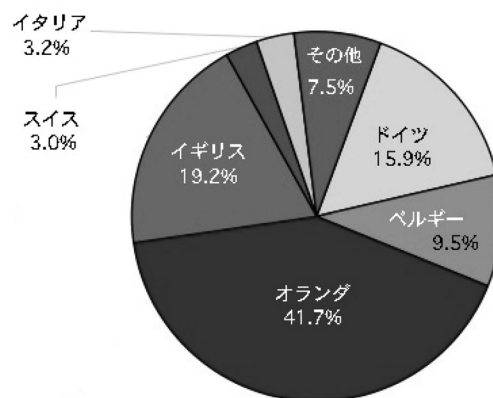
年比0.5%の増加を記録した。しかしこの増加率の裏にはキャンプ場の等級別について、さらにはキャンプ区画の種類別について大きな不均衡が存在する。シーズン最盛期（7月と8月）に稼働率は54.1%に達し、同時期前年比で0.8%増加した。稼働率は等級上位のキャンプ場ではさらに大きく（三ツ星キャンプ場では56.7%、四ツ星キャンプ場では68.2%）、トレーラーハウス型の軽量住居のついたキャンプ区画に限ると、三ツ星で78%、四ツ星で82.5%に達した。

野外宿泊におけるヨーロッパ人客の割合は、外国人客のほとんどを占める。外国人客の宿泊数は2007年に2.5%減少したのに引き続き、2008年においても減少したが、その率は0.4%にとどまった。

キャンプ場を利用した外国人客の首位はオランダ人で、オランダ人だけで全外国人の宿泊数の41.7%を占めた。オランダ人の宿泊数は2007年に落ち込んだが、2008年にはわずかながら増加に転じた（0.4%）。

外国人客の二番目はイギリス人が占め、宿泊数の増加率は2.3%であった。イギリス人は外国人客全体の宿泊数の19.2%を占める。数量的にいうと三番目はドイツ人で宿泊数の15.9%を占めたが、前年比6.7%減と大きく落ち込んでいる。

ベルギー人とスペイン人の宿泊数は増加したのに対して、イタリア人の宿泊数の落ち込み、特に8月と9月に集中した落ち込みが目立った。



野外宿泊における外国人客の割合（2008年）
出典：キャンプ場宿泊調査（INSEE、観光局）

6. 不均衡な州別の宿泊状況

大都市ではホテル宿泊客が増加した

2008年を通して観光ホテルの宿泊数増加率第一位だったのはミディ・ピレネ州であり、増加率は10.4%であった。この大きな要因は外国人客の増加であった（23.8%増）。これは穏やかなウィン

ターシーズンとルルドの聖年が重なったためである。この時期、ブルターニュ州やアキテーヌ州、ラングドック・ルシオン州、プロヴァンス・アルプ・コートダジュール州など沿岸の各州ではホテル宿泊数が減少した。

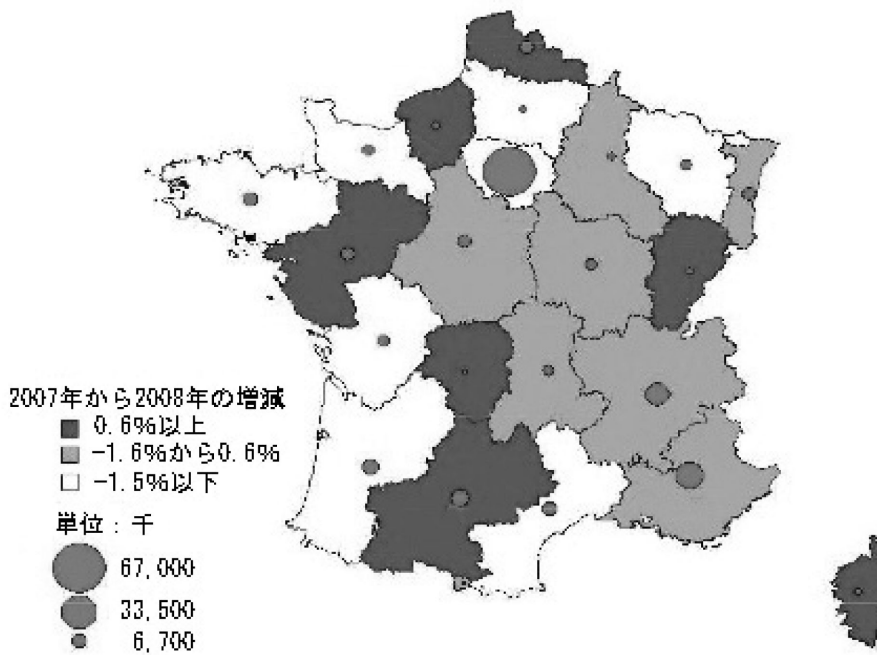
最大の宿泊数を記録したのは都市部に位置する観光ホテルだった（65%）。

下半期には軽い落ち込みが見られたが、都市部のホテル宿泊数は1.2%増加した。沿岸の各州についていうと、2008年は特に芳しくなかった。全体的に見るとこの沿岸の観光空間での宿泊数の減少は2%であり、3.4%減少した外国人宿泊数の影響を強く受けた。大西洋岸では、ブルターニュ州とアキテーヌ州については減少が見られたが、オート・ノルマンディー州のみは7月のアルマダのおかげで比較的堅調だった。地中海岸についてはラングドック・ルシオン州とプロヴァンス・アルプ・コートダジュール州はそれぞれ2.5%と1%の減少を記録した。ここでも外国人客の減少が大きく影響を及ぼした。

一方でキャンパーは沿岸部を好んだ

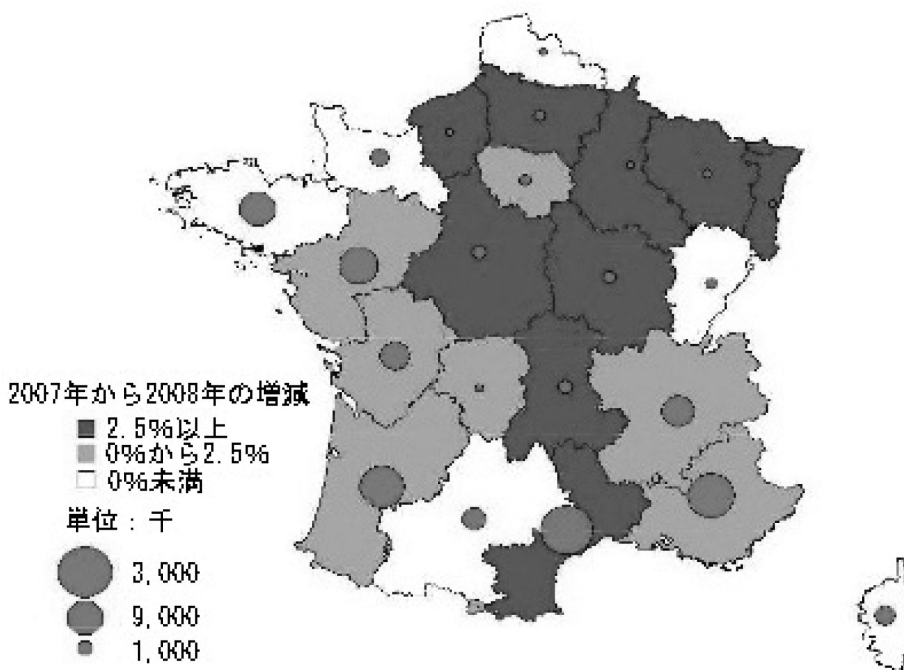
野外宿泊にとって2008年は、ノール・パ・ドゥ・カレー州やブルターニュ州、コルシカ州、ミディ・ピレネー州、バス・ノルマンディー州などを除いては、おおむね好調な年であった。

地中海岸は全宿泊数の23.5%を占めて首位の座を保ち、



ホテルにおける宿泊数（2008年）

出典：観光ホテル宿泊調査（INSEE、観光局、各州の連携先）



キャンプ場における宿泊数（2008年）

出典：野外宿泊宿泊調査（INSEE、観光局、各州の連携先）

増加率は1.1%だった。ラングドック・ルシオン海岸についてはフランス人客と外国人客の宿泊数がともに増加したとはいえ、プロヴァンス・アルプ・コートダジュールの沿岸部では外国人の宿泊数が3.1%減少したことが確認されている。実際、この州における外国人宿泊数の44%を占めるオランダ人は10.6%も減少したのである。2008年にオランダ人キャンパーのお気に入りとなったのはアキテーヌ州とミディ・ピレネ州であった。

ホテル宿泊数はアンティル諸島では減少し、ギアナでは増加した

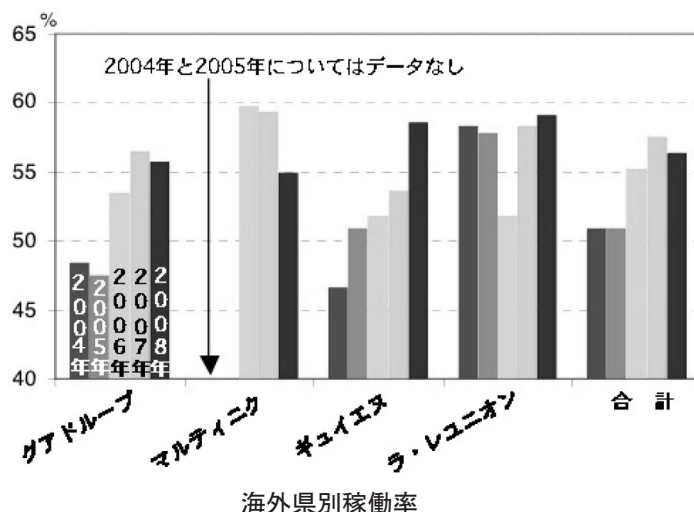
2008年に海外県全体における観光ホテルの宿泊数は前年比11%の減少を記録した。このような宿泊数減少はアンティル諸島に集中しているが（グアドループでは25.1%減、マルティニクでは5.6%減）、その一方でレユニオンでは堅調であり（0.2%増）、ギアナでは24.6%もの増加を示した。その結果、客室稼働率はアンティル諸島で、供給が減少したのにも関わらず、低下した。稼働率はレユニオンではほとんど変化が見られず、ギアナでは大幅に増加した。

2008年の海外県における宿泊数の変化

	2008年の宿泊数			対前年比		
	合 計	フランス人	外国人	合 計	フランス人	外国人
グアドループ	1,705,000	1,321,000	384,000	-25.1%	-24.4%	-27.4%
マルティニク	1,805,000	1,639,000	165,000	-5.6%	-9.1%	51.3%
ギアナ	441,000	390,000	51,000	24.6%	29.0%	-0.9%
レユニオン	800,000	736,000	64,000	0.2%	1.1%	-9.8%
海 外 県	4,752,000	4,087,000	665,000	-11.0%	-10.8%	-12.6%

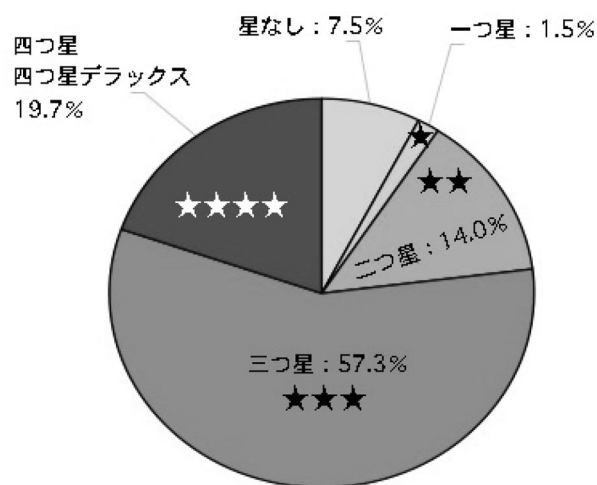
出典：観光ホテル宿泊調査

アンティル諸島にとっては非常に不利となったこの変化の原因は、上半期におけるハリケーン・ディーンの襲来であった。このハリケーンは非常に破壊力が強く、2007年半ばにアンティル諸島を襲ったのだった。下半期には世界経済の減速が観



光活動の鈍化を伴った。ギアナについてはスペイン・ヨーロッパエヌ代理店の存在が2008年上半期の宿泊数増加を説明する。実際、この代理店は3月と4月に、国際宇宙ステーションの再活性化のためのエンジンを軌道に乗せるためのアリアヌス5の発射を実施した。レユニオン島については2008年の変化はフランス本国での傾向と同じであった。つまり2008年半ばまでの増加と、それ以後の経済危機による宿泊数減少というパターンである。

2008年の海外県における平均客室稼働率は56.4%で、前年比1.2%の減少だった。減少したといっても各県では大きな相違が見られる。実際、グアドループとマルティニクについては客室稼働率がそれぞれ0.9%と4.4%の減少を示したが、ギアナ



等級別供給分布

出典：観光ホテル宿泊調査

については5.1%増、レユニオンについては0.7%増を記録したのである。

2008年を通して海外県におけるホテル施設の数 は249から236に減少した。客室については年末時点で12,142部屋を数えたなかで8.7%の減少となった。こうした供給の変化は特にマルティニク（11.8%減）とグアドループ（9.7%減）において著しかった。

海外県においては三つ星ホテルが客室供給の半分以上を占めている（57%）。また三つ星ホテルは宿泊数の半数以上も占めている。客室数が最も減少したのもこの三つ星クラスのホテルであった（12.6%減）。

2008年にグアドループではフランス人・外国人ともに宿泊数が非常に減少した（それぞれ24.4%減と27.4%減）。マルティニクではフランス人の宿泊数が9.1%減少したのに対して、外国人の宿泊数は前年比51.3%の増加となったが、これは主にヨーロッパ人客の増加によるものであった。ギアナについてはフランス人客の宿泊数が29%も増加した（アリアーヌ5の打ち上げ）のに対して、外国人客の宿泊数は0.9%減となった。レユニオンについても同様の傾向だった。つまりフランス人客の宿泊数増加（1.1%）と外国人客の宿泊数の大きな落ち込み（9.8%減）である。

7. そのほかの観光活動

輸送

航空旅客輸送は2008年に1.3%増加し、パリの空港の伸びが0.8%だけだったのに対して、地方空港の伸びは2.5%と非常に大きかった。国内航空輸送はTGVとの競争もあって減少傾向が続いたが（2008年で1.1%減）、国際航空輸送は3%の増加を示した。航空輸送の拡大は格安航空会社の貢献で実現したが、これらの会社は2008年に14.6%の旅客数増加を記録した。海外県や海外領土の空港は0.8%の減少を記録した。

鉄道輸送は航空燃料の高騰のおかげで増加した。フランス国鉄はフランス国内とヨーロッパ内で1億2,800万人の旅行者を輸送したが、これは前

パリの空港における国際輸送（2008年）

順位		乗客数	前年比
1	米国	6,208,034	2.5%
2	スペインとカナリア諸島	6,169,871	-1.6%
3	イタリア	5,964,572	3.4%
4	ドイツ	4,515,335	-3.1%
5	イギリス	4,435,317	-46%
6	モロッコ	2,889,280	8.8%
7	アンティル諸島	2,084,533	-2.1%
8	チュニジア	1,964,191	6.3%
9	ポルトガルとアゾレス諸島	1,794,163	6.4%
10	スイス	1,740,418	-2.5%
11	カナダ	1,717,850	6.5%
12	アルジェリア	1,502,439	4.5%
13	日本	1,268,020	-4.2%
14	ブラジル	1,151,496	13.5%
15	オランダ	1,128,312	-14.0%

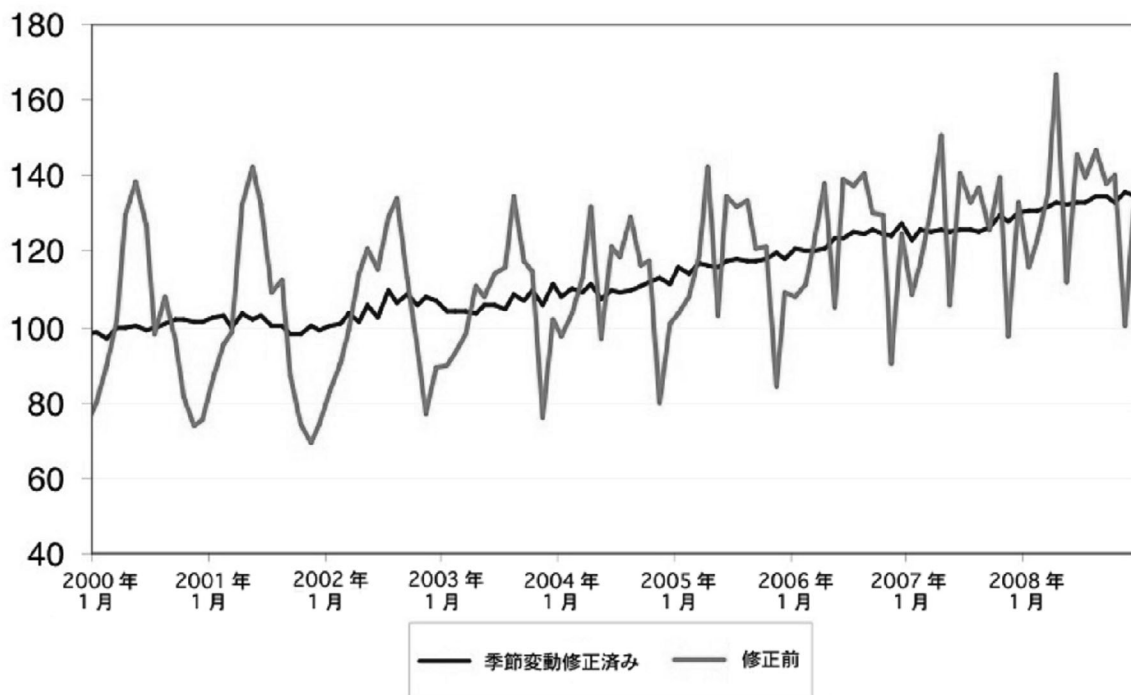
出典：ADP

年比9%の伸びである。旅客キロ数で測った輸送量については、幹線とTER、インターシティ・コライユで6%の伸びを示した。

旅行代理店とツアー・オペレーター

2008年は旅行代理店の売上高が前年比5.3%の増加を記録した。

CETO（ツアーオペレーター協会）の指標によると、2007年11月1日から2008年10月31日までの期間、旅行数は直前の12ヶ月と比較すると3.5%増加し、航空機利用のみの客数の伸びは、パック旅行数の伸びが1%にとどまったのに対して9.3%と大幅に増加した。全体の売上高は8.2%増であり、内訳は航空機の利用が13%増、パック旅行が7.3%増だった。最も活発だったのは中距離輸送の分野だった。パック旅行については、中距離便で2008年に非常に増加した目的地はエジプトとトルコであり、長距離便では北米とモーリシャス諸島であった。航空機の利用については、最も増加した目的地は米国（42%増）とスペイン（33%増）であった。



旅行代理店売上げ指数

出典：INSEE

スキー場の宿泊数

2007年から2008年にかけての今期のウィンターシーズンの決算は、5,460万スキー日と10億800万ユーロの収入（税込み）という結果になった。それまでの4シーズンと比較すると、宿泊は3%増加した。今期はアルプスにとっては好調であったが、ほかの山塊については明暗が分かれた。今期はヴォージュとピレネーについては思わしくなかった。

今期の開始時はすべての山塊で積雪が早かった恩恵を被った。中高度のウィンターリゾートでは非常に良好な客の入りを記録した。

レジャーパーク

2008年、レジャーパークは近距離に位置するために景気変動から有利な影響を被った。主要パークでは入場客数が増加した。入場者数はヴェルカニアでは20%増、アステリクスでは11%増、ピュイ・ドゥ・フでは10%増、ディズニーランド・パリでは5.5%増、フチャーロスコープでは4%増という結果であった。

8. 2008年の観光物価

2008年、消費者物価は夏までの原油や一次産品の高騰、それに続く価格急落なその影響を強く受けた動きを示した。したがって、物価は前年比で平均2.8%上昇したとはいえ、消費者物価指数の伸びは1%という緩やかなものにとどまったのである。物価の変動はエネルギー以外では年平均で2.1%という漸次増となった。

2008年、観光活動に関する価格は、経済分野全体よりも早く上昇した。前年比で平均3.9%の上昇であった。宿泊価格は前年に引き続いて、前年比4%以上と高い伸びを示した。パック旅行価格の大幅な上昇は、原油価格の高騰に対処するための燃油サーチャージ制度が実施された結果である航空燃料の高騰に関係している。飲食価格については平均3.3%の上昇であった。

観光活動の中には現れないが観光客がその費用を負担している個人的移動手段の利用は、2008年には燃料価格とのあいだで非常に矛盾した価格変化を被った。2008年に燃料価格が平均7.6%上昇した一方で、漸次的減少は2.7%となったのである。

消費者物価の変化

	年平均	漸次的年変化(注)
全体	2.8%	1.0%
エネルギーを除いた全体	2.1%	1.7%
観光活動	3.9%	4.2%
-宿泊	4.4%	4.1%
内、ホテル	4.7%	4.2%
-パック旅行	7.2%	12.0%
-輸送	4.6%	5.1%
-飲食	3.3%	3.3%
個人的移動手段の利用	7.6%	-2.7%

出典：INSEE

注：2007年12月と2008年12月の間の変化割合

9. 「ホテル・カフェ・レストラン」分野

企業設立数の減少

2008年にホテル・カフェ・レストラン分野での企業設立数は16,600ほどであり、前年比8.2%の減少であった。この減少は下半期に著しく第4四半期には11.6%減を記録した。

他の分野と比較すると、ホテル・カフェ・レストラン分野で見られた減少は最も大きなもののひとつであった。しかし設立企業数の減少が著しかったのは建設部門（第4四半期については17.2%の減少、年平均では2.1%の減少）と、商業部門であった（第4四半期については11.8%減、年平均は1%減）。

表1 設立企業数

主要産業分野	2007	2008	変化割合
工業	18,626	20,757	11.4%
建設	55,497	54,306	-2.1%
商業	78,525	77,757	-1.0%
運輸	7,706	7,884	2.3%
企業サービス	68,019	71,796	5.6%
個人サービス	43,107	42,661	1.0%
内、ホテル・カフェ・レストラン	18,110	16,622	-8.2%
全体	321,478	327,396	1.8%

出典：INSEE

倒産企業数の増加

あらゆる産業分野を総合すると、破産宣告を受けた企業数は2008年の最初の10ヶ月間に増加した。

たとえば入手できる最新の統計によると、2008年10月に行われた破産宣告を含めると、過去12ヶ月の蓄積データで12.0%の増加、過去3ヶ月の蓄積データだと17.8%の増加となった。ホテル・カフェ・レストラン分野に限ると、同様の破産増加率はそれぞれ16.2%と17.5%であった。

雇用創出数の減少

2008年にはホテル・カフェ・レストラン分野は有給の新規雇用の創出源であった（表2）。暫定値では2008年を通して10,400の新規雇用の単位が創出されたが、これは1.2%の増加にあたる。この新規雇用増加率は建設（0.9%増）や運輸（0.4%増）などの分野よりも大きい、一方で商業分野では有給の雇用が減少している。このことは前年には見られなかったことである。

しかし雇用創出傾向の明らかな鈍化も確認できる（グラフ1）。2008年の第3四半期には8,000の雇用が失われ、事実上第1四半期の増加を帳消しにしたが、第4四半期には何とか埋め合わせが可能となった。1万を超える年間雇用数の伸びがあったおかげで、2003年半ばから2004年半ばまで、そして2006年の第1四半期までに観察された水準に達した。

表2 有給の非雇用者実数と変化割合

	2008年末 の実数	2008年の 増減(%)	変化割合 (%)
工業	3,607,000	-73.3	-2.0
建設	1,486,300	12.7	0.9
サービス産業	10,796,100	-80.5	-0.7
-商業	3,065,500	-12.9	-0.4
-運輸	1,112,100	4.2	0.4
-企業サービス	3,383,200	-108.8	-3.1
-個人サービス	2,198,000	45.4	2.1
内、ホテル・カフェ・レストラン	889,100	10.4	1.2
主として営利分野	1,5889,100	-141.1	-0.9

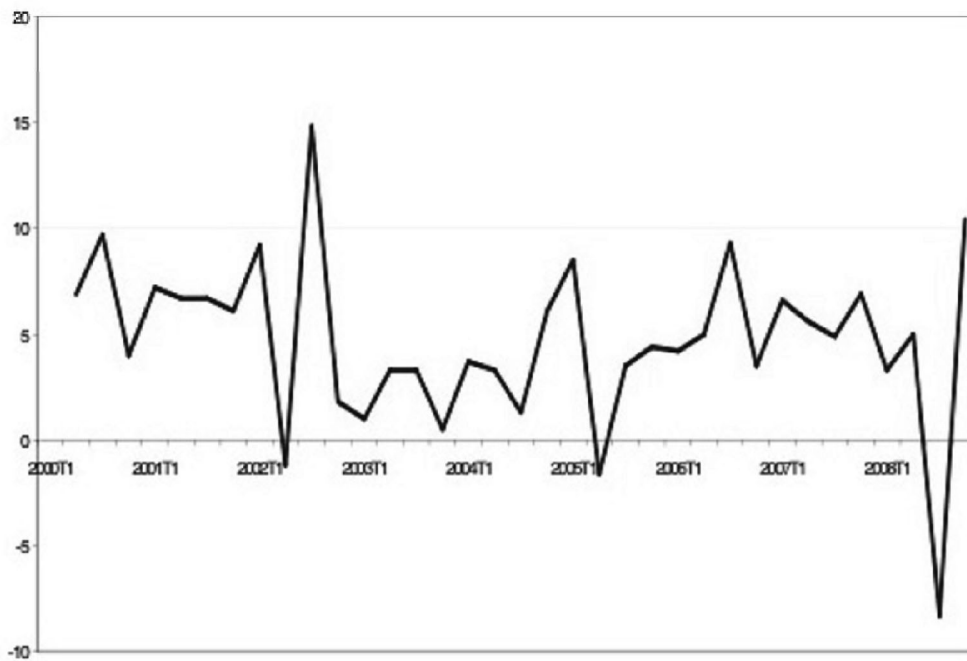
出典：INSEE

こうした減少傾向は、増加のリズムが半分に減じたことを意味するので、深刻である。しかしこの減少は建設分野の被った減少よりも少ない。建設分野の減少率は過去2年間の4%以上から1%

未満に変化した。同様に商業分野も、2007年の1.4%増という結果の後、わずかに実数の減少を記録した（0.4%減）。

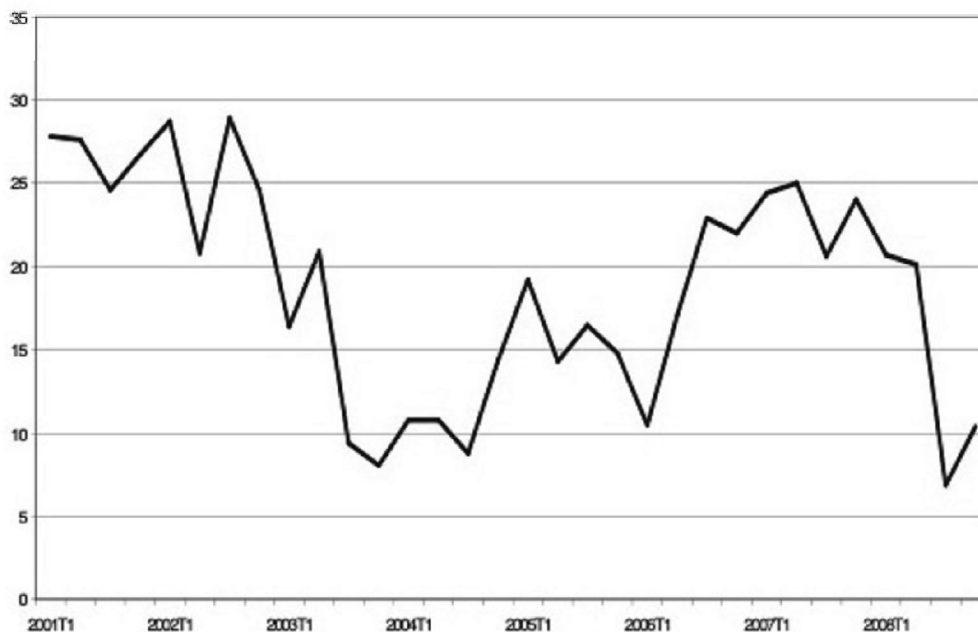
また、以前はホテル・カフェ・レストラン分野での新規雇用の創出は特にファストフード分野で見られたということが明らかであるということも指摘しなければならない。

有給の非雇用者の実数変化：ホテル・カフェ・レストラン分野（四半期ごとの新規雇用数）



ホテル・カフェ・レストラン分野
四半期別雇用創出数（単位：千）

有給の非雇用者の実数変化：ホテル・カフェ・レストラン分野（2001年からの新規雇用数の変化）



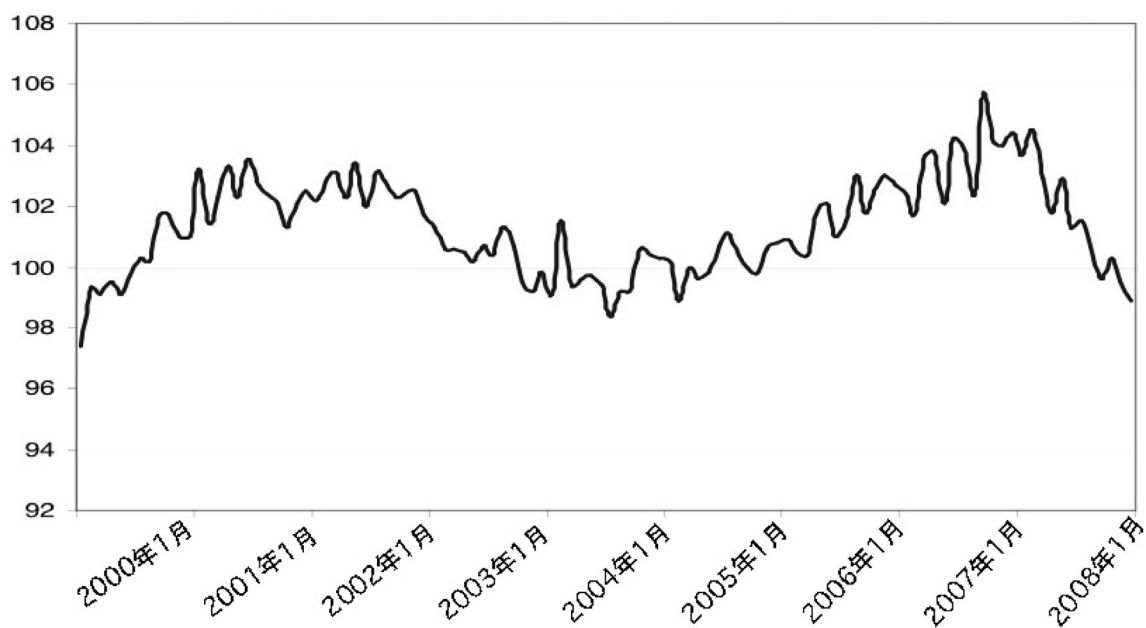
ホテル・カフェ・レストラン分野
年度別雇用創出数（単位：千）

出典：INSEE

ホテル・レストラン分野での総売上

2008年にホテル・カフェ・レストラン分野の成長は鈍化し、カフェ分野の売り上げについては前年比3.4%減を記録した。2008年に観光ホテルとレストランの売り上げはそれぞれ1.4%と0.5%、増加した。しかし取引量について2008年は2007年

に及ばなかった。特にカフェ分野は2007年に比べて5.8%減という最大の活動低下を記録した一方で、ホテルは取引量で2.8%の減少、レストランも同じく2.6%の減少となった。このような活動鈍化は特に年度後半に見られた。



ホテルとレストランにおける売上高の推移：2000年を100とする総額指標（季節変動修正済み）

出典：INSEE

